

# 平成28年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷商業高等学校)

|        |   |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 歴史と伝統を受け継ぐとともに、先進的なビジネス教育を融合させ、地域社会をリードする人材を育成する。 |
|--------|---|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 開かれた学校づくりをとおして地域との連携を推進し、意欲と適性のある生徒募集に組織的に取り組む。<br>2 基礎・基本を重視したきめ細やかな「わかる授業」を推進し、学習意欲を高め基礎学力の向上に取り組む。<br>3 基本的な生活習慣の確立と、生徒の自主的な活動の習慣化に取り組む。<br>4 生徒の進路希望実現に対応した、継続的・体系的な進路指導に取り組む。 |
|------|--|

|     |   |             |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上)  |
|     | B | 概ね達成(6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し(4割以上) |
|     | D | 不十分(4割未満)   |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

|     |          |   |
|-----|----------|---|
| 出席者 | 学校関係者    | 名 |
|     | 生徒       | 名 |
|     | 事務局(教職員) | 名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 |   |                   |  |  |           |     |
|-------------|---|-------------------|--|--|-----------|-----|
| 年 度 目 標     |   |                   |  | 年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )  |           |     |
| 番号          | 現状と課題   | 評価項目              | 具体的方策  | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況 | 達成度 |
| 1           | ・ 県北部地域の中学生数が減少傾向の中、組織的かつ計画的な広報活動等を実施し、今年度入学生について募集人員を満たすことができた。地域連携や情報発信等を一層充実させ、より高い目的意識と意欲のある入学志願者を確保することが課題である。 | 意欲ある入学志願者の確保      | ① 中学校の先生方対象のPRを充実させる。<br>② 中学生に、「学科の特色」が理解できるリーフレットを作成する。<br>③ 本校主催の学校説明会や体験入学等を計画的に実施するとともに、中学校や外部団体等主催の高校説明会へ積極的に参加する。<br>④ 部活動による中高連携や地域連携を一層推進する。<br>⑤ 学校ホームページの随時更新や熊商ジャーナルの発行による、積極的な情報発信を行う。      | ① 中学校の先生方対象のPRを実施したか。<br>② 「学科の特色」が理解されるリーフレットを作成したか。<br>③ 本校主催、外部主催合わせて、10回以上の説明会等を実施したか。<br>④ 部活動による中高連携や地域連携を実施したか。<br>⑤ 学校ホームページの随時更新や熊商ジャーナルの発行など、積極的な情報発信を行ったか。        |           |     |
| 2           | ・ 落ち着いた雰囲気の中で授業が展開され、生徒一人一人が真面目に学習に取り組んでいる。ただし学力に幅があり、基礎学力の定着など個々の生徒に応じた指導の工夫が課題である。                                | 学習習慣の確立と学力向上      | ① 「朝学習」に継続的に取り組み、学習習慣の定着を図る。<br>② 生徒にわかる授業、生徒参加型の授業の工夫を行う。<br>③ 習熟度別授業など、個々の生徒に応じた指導をおこない、各種検定等の目標を達成させる。<br>④ 力のある生徒には、より上位の資格にも挑戦させる。  | ① 学年ごとに計画的に、「朝学習」に取り組めたか。<br>② 成績不振者が昨年度より減少したか。<br>③ 生徒各自が検定合格等の目標を達成したか。<br>④ 日商簿記検定や情報処理技術者試験等の高度な資格取得者がいたか。  |           |     |
| 3           | ・ 多くの生徒が規範意識をもち、基本的な生活習慣が確立している。特に部活動や学校行事に積極的に参加し、充実した高校生活を送っている。卒業後、すぐ社会人となっても通用する基礎的素養をしっかりと身につけさせることが課題である。     | 規範意識の向上と部活動の充実    | ① 「道徳教育」(在り方生き方教育)を充実させる。<br>② 「自転車マナーアップ推進校」の指定を受けて、自転車の安全運転を徹底する。<br>③ ネットトラブル、携帯電話等の指導を強化し、問題発生を未然に防止する。<br>④ 学校周辺清掃等の地域貢献を一層推進する。<br>⑤ 外部指導者を活用して、各部活動の技術向上を図る。<br>⑥ 大会実績や地域交流など、各部活動の活躍を積極的に情報発信する。 | ① 各学年で、計画的に道徳教育(在り方生き方教育)に取り組んだか。<br>② 雨天時のカッパ着用等、交通ルールを遵守できたか。また、事故件数が減少したか。<br>③ ネットトラブル等を防止できたか。<br>④ 地域貢献を実施したか。<br>⑤ 外部指導者を活用し、また、部活動の実績をあげられたか。<br>⑥ 部活動の活躍等を情報発信できたか。 |           |     |
| 4           | ・ ここ数年の進路指導では、進学・就職において進路実現率100%を達成している。今後は、四年制大学への進学や公務員、優良企業等への就職など、一層高い進路目標の実現が課題である。                            | 高い目標達成に向けた進路指導の充実 | ① 1、2年生の進路ガイダンスを充実させ、早期から高い進路意識をもたせる。<br>② 「面接ノート」の活用や個別面談等を繰り返し行い、希望に合った進路を実現する。<br>③ 公務員や看護など進路希望に応じた学習会を計画的に行う。<br>④ 管理職や学年、進路指導部による企業訪問を実施し、優良な就職先を確保する。<br>⑤ 大学との連携を強め、進学者を増加させる。                   | ① 進路意識向上を目指した進路ガイダンスを計画どおり実施したか。<br>② 全員が希望の進路を実現できたか。<br>③ 公務員や看護など希望に応じた結果が得られたか。<br>④ 管理職や学年、進路指導部による企業訪問を実施したか。<br>⑤ 大学への進学者が増加したか。                                      |           |     |

| 学 校 関 係 者 評 価     |    |   |     |
|-------------------|----|---|-----|
| 実施日               | 平成 | 年 | 月 日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 |    |   |     |
|                   |    |   |     |
|                   |    |   |     |
|                   |    |   |     |

